形成外科・美容外科

①形成外科・美容外科の特色

大学病院レベルでも、独立した科が設けられていない病院もある中、当院、形成外科・美容外科では、今後より専門性を求められるであろう社会的ニーズに先駆けた診療を行っています。当科は、皮膚・軟部組織などの外表変形や欠損を、機能と形態の両面から修復、再建することを目的としており、その結果、診療分野は、外傷（熱傷、顔面骨骨折など）、皮膚・軟部組織腫瘍、瘢痕、褥瘡、難治性潰瘍、下肢静脈瘤、下腿リンパ浮腫、先天性疾患（唇裂・口蓋裂・多合指症など）、頭頚部・乳腺等の腫瘍切除後における再建手術など多岐にわたり、年間約 1000 件程度の手術実績があります。なかでも、褥瘡・難治性潰瘍の治療においては院内・院外問わず他科と連携し、下肢のカテーテルによる血管内治療や血管バイパス手術での血行再建を駆使した治療も行っております。臨床はもとより、創傷治癒や再生医学をテーマとした研究が、国内外から高い評価を得ています。加えて、眼瞼の形成手術や皮膚色素性疾患（しみ等）など、美容外科の分野の診療も行っており、幅広い症例がそろっています。また、形成外科ならではとも言える、マイクロサージャリーを応用した遊離組織移植手術においては、2007 年 4 月に悪性腫瘍治療を主眼として開院した国際医療センターへも、当科から常勤スタッフを派遣しており、他科スタッフと協力して腫瘍切除後の再建手術に従事しています。

このように、当科は形成外科の診療分野において、さまざまな症例を扱っており、基礎的手技から専門的技術・知識まで幅広く学ぶことができます。

②一般目標（GIO）

臨床医に必要な基本的な臨床能力を身につけるために、代表的な形成外科疾患の診断と治療の実際を学ぶ。

③行動目標（SBOs）

１．行動・態度
（１）医師としてふさわしい態度で患者および家族と接する
（２）医療スタッフと協調してチーム医療ができる
（３）担当患者について適切に症例提示ができる
（４）疾患などについて良く勉強し問題点の提示ができる
（５）学内外の必要な講習会などに積極的に参加する

２．診療録
（１）診療録について正しく理解する
（２）診療録を正しく記載・作成できる
（３）紹介状などを適切に作成できる

３．診察法
（１）形成外科に必要な局所解剖を理解する
（２）顔面外傷などについての診察法を理解する
（３）難治性潰瘍の診察法について理解する
（４）その他、形成外科に必要な診察ができる

４．検査
（１）頭部・顔面のＸ線画像を正しく読める
（２）主要な神経麻痺の検査法について理解する
（３）難治性潰瘍に必要な検査法について理解する
（４）手術前患者の検査データを理解し、全身状態の把握ができる
（５）その他、形成外科に必要な検査法について理解する

５．診断
（１）形成外科の先天異常疾患に関して基本的知識を有する
（２）皮膚・皮下腫瘍に関して基本的知識を有する
（３）創傷治癒過程について基本的な理解が得られている
（４）顔面外傷・熱傷など形成外科で扱う救急患者に対し適切な診断が下せる
（５）その他、形成外科的疾患に対し適切な診断が下せる

６．手術・治療
（１）形成外科の基本的手術手技を習得する
（２）熱傷・潰瘍の局所・全身管理について基本的知識を有する
（３）難治性潰瘍に対する基本的手術を修得する
（４）皮膚・皮下腫瘍に対する基本的手術手技を習得する
（５）遊離組織移植など専門手術の助手を努める
（６）組織移植の原理を理解し、植皮術などの簡単な組織移植術を行える
（７）術前術後の適切な処置ができる

③研修方略(LS:Learning Stratequies)

初期臨床研修は、今まで培ってきた知識をより一層深めながら、診察・診断・治療へと具現化していく場であるだけではなく、患者さん・メディカルスタッフと良好な関係を築くための接遇を身につける場でもあります。個性豊かで、気さくな先生がそろっていますので、参考になることもあるかもしれません。また、当科では、主治医制をとっており、基本的には 3 年目以上の医局員の指導のもとで診療に参加していただきます。手術の規模も、手術室での大掛かりなものから、外来での小手術までバラエティーに富んでいます。さらに救急外傷などは研修医の先生にも積極的に参加してもらい、初期研修に必要な縫合を含めた処置の技術を学んでもらいます。

④研修スケジュール

	午前	午後
月	**カンファレンス　　入院手術**	**入院手術 病棟管理** 巻爪専門外来
火	一般外来 **病棟処置** 難治性潰瘍専門外来	**外来手術 病棟管理** 褥瘡回診 装具外来
水	一般外来 **病棟処置** 先天性疾患専門外来	**外来手術 病棟管理**
木	一般外来 **病棟処置**	**外来手術 病棟管理** 色素疾患・レーザー治療専門外来 リンパ浮腫専門外来
金	**カンファレンス　　入院手術**	**入院手術 病棟管理**

※基本的には、上記太字に参加していただきます。希望があれば最大限考慮します。

⑤研修方略のポイント

外科系診療科の中では、研修医が直接手技にたずさわる機会に恵まれている。将来の進路にかかわらず、傷をきれいに治すための縫合法・小手術の基礎が習得できる。

⑥研修中に経験できる疾患・手技

外傷救急患者の創処置、入院手術の創縫合、創傷のケア・管理技術、一部の外来手術を経験できます。経験可能な疾患に関しては、前述のとおり多岐に渡ります。ランダムに割り当てますが、限られた研修期間、特に希望する症例などありましたら、適宜相談に応じますのでご相談下さい。

⑦研修評価法（EV：Evaluation）

研修終了時に研修担当指導医による評価を受ける。EPOC2 評価項目の他、各行動目標の達成度につき、本人および評価者と確認する。

到達目標と評価表

【評価 A：可　　B：不可】	自己評価	指導医評価
１．上級医師の指導の下で、患者への必要な指示および処置ができる。	（　　）	（　　）
２．指導医や専門医に適切にコンサルテーションできる。	（　　）	（　　）
３．症例提示ができて、チーム医療のメンバーと討論ができる。	（　　）	（　　）
４．診療計画を作成することができる。	（　　）	（　　）
５．診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し、活用できる。	（　　）	（　　）
６．手術記録が適切に記載できる。	（　　）	（　　）
７．術前に必要な検査を選択でき、オーダーできる。	（　　）	（　　）
８．手術に伴う危険因子を理解できる。	（　　）	（　　）
９．適切な輸液管理ができる。	（　　）	（　　）
10. 術後の合併症に対する適切な治療法を理解し、実践できる。	（　　）	（　　）
11. 外科的な栄養管理の知識をもち、実践できる。	（　　）	（　　）
12. 手術時の清潔操作が正しくできる。	（　　）	（　　）
13. 局所麻酔法ができ、皮下の小さな腫瘤を摘出できる。	（　　）	（　　）
14. 創傷治癒過程を正しく理解し、創傷の管理ができる。	（　　）	（　　）

⑧当科連絡先

電話番号：049-276-1230　（形成外科医局 直通）

新入医局員も随時募集しています、見学希望や進路などご相談下さい。